

高等学校において登山活動を行っている運動部に関する調査

I 調査のねらい

最近の登山は、幅広い年齢層にわたって、ハイキングからクライミングまで多様な登山が行われるとともに岩登りや氷壁登はんなど、ジャンル別に目的を追求する傾向や国民体育大会、全国高等学校総合体育大会等競技登山の影響を受け、高等学校の登山活動は、多くの悩みや問題をかかえている。こうした問題は、当研修所の高等学校登山指導者研修会において、しばしば提出され協議されてきた。そこで、このたび、前回（昭和49年5月実施）に引き続き高等学校で登山活動を行っている運動部に関する調査を行い、高等学校登山の活動内容や指導者の実状をより具体的には握し、これからの高等学校登山指導者育成の一助とするためにこの調査を実施した。

II 調査の対象

前回抽出した全国の15府県の高等学校調査対象校1583校のうち、回答のあった学校は1333校で、その回答率は84.2%であった。

III 調査の期日

昭和62年12月

IV 調査の方法

別紙調査用紙を各府県教育委員会に以来して配布、回収を行った。なお調査結果の処理は、登山研修所で行った。

V 調査内容

1. 登山活動の実施学校数
2. 登山活動を行っている運動部の名称
3. 部員数の状況
4. 高等学校体育連盟登山部加盟状況
5. 山行活動
 - (1)大会や部独自における季節別山行
 - (2)冬季の活動状況
6. 放課後の活動
 - (1)講座、討論、研究会等の実施
 - (2)トレーニング実施状況
 - (3)トレーニング実施内容
7. 岩登り
 - (1)実施状況

- (2)指導内容
- (3)実施内容
- (4)指導者
- (5)年間実施内容

8. 春山登山

- (1)実施状況
- (2)指導内容
- (3)実施内容
- (4)指導者
- (5)年間実施回数

9. 事故対策

- (1)山行計画を事前に審査する機関、機構の有無
- (2)万一の事故に備えての対応組織について
- (3)保険の加入状況

10. 登山活動を行っている運動部顧問

- (1)府県別総数と1校当たりの平均
- (2)年齢別指導者数
- (3)担当教科別指導者数
- (4)大学における山岳部等の経験の有無
- (5)登山通算経験者数
- (6)日本山岳協会等の指導員等資格の有無

11. 教職員以外の指導の有無

- (1)指導の有無
- (2)指導者の状況

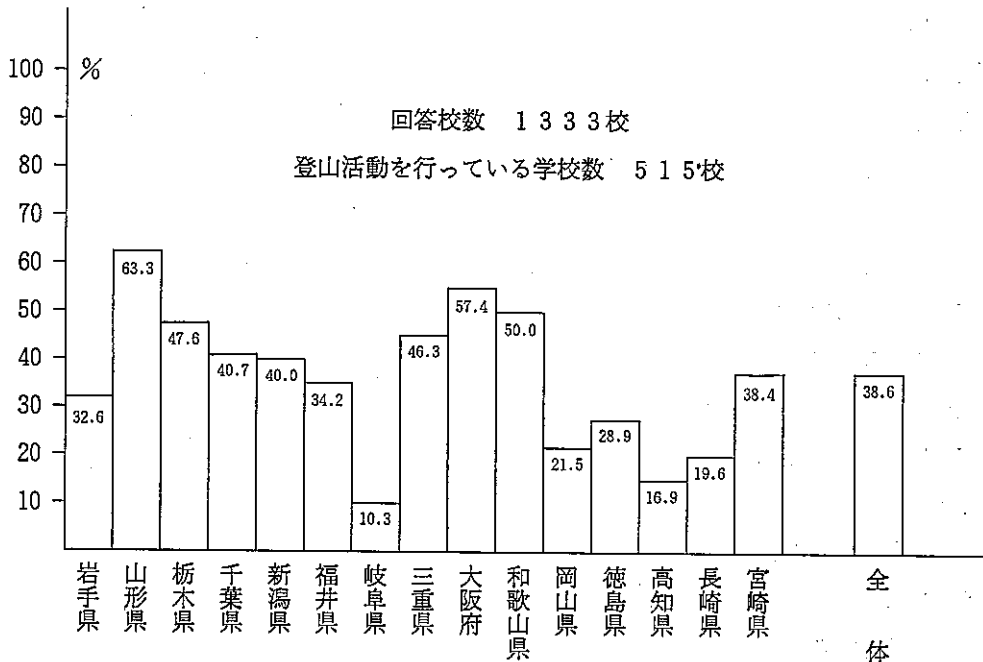
12. 競技登山（大会登山）についての意見

Ⅵ 調査結果について

1. 登山活動の実施学校数

府 県	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合 計
回 答 校 数	92	71	82	194	145	38	107	79	209	32	79	45	65	56	39	1,333
登山活動を行っている学校数	30	45	39	79	58	13	11	37	120	16	17	13	11	11	15	515
登山活動実施率 (%)	32.6	63.3	47.6	40.7	40.0	34.2	10.3	46.3	57.4	50.0	21.5	28.9	16.9	19.6	38.4	38.6

登山活動実施校数の割合



1333校の回答のあった学校で、登山活動を実施しているのは、515校（38.6%）となっている。府県によって登山活動への取り組みが比較的低調なところもみられる。

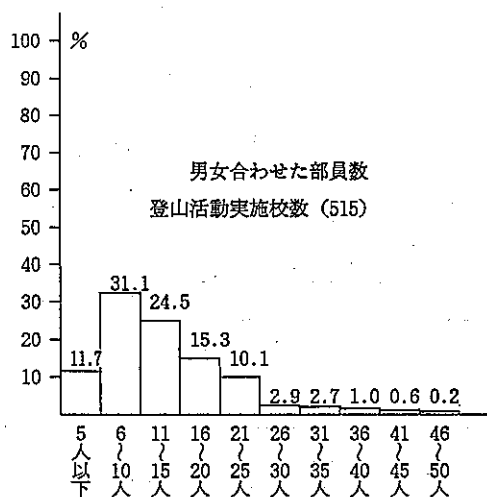
2. 登山活動を行っている運動部の名称

府 県	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合 計
登山部・山岳部	27	40	32	46	51	13	9	29	59	13	13	12	11	11	15	381校 (74.0%)
ワンダーフォーゲル部や各種同好会	3	5	7	33	7	0	2	8	61	3	4	1	0	0	0	134校 (26.0%)
																515校

登山部・山岳部等の名称を持つ学校は、昭和50年の調査では、91%であったものが、今回の調査では、74.0%と減少している。ワンダーフォーゲル部や各種同好会等は、増加傾向を示し26.0%である。

3. 部員数の状況

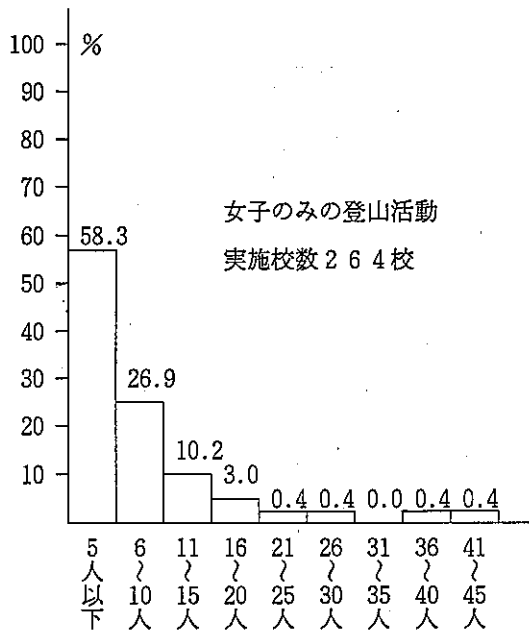
人数	府 県																合 計	
	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	校	(%)	
男女あ わせ た部 員 数	5 人 以 下	3	7	2	8	8	0	1	1	22	1	2	2	1	1	1	60	11.7
	6 ～ 10 人	5	15	13	26	18	3	1	10	47	2	5	1	3	3	8	160	31.1
	11 ～ 15 人	7	13	10	20	11	2	4	11	27	6	1	4	3	4	3	126	24.5
	16 ～ 20 人	3	7	8	12	13	3	1	7	11	3	5	3	1	1	1	79	15.3
	21 ～ 25 人	4	1	3	5	4	2	3	4	10	4	3	3	3	1	2	52	10.1
	26 ～ 30 人	2	1	1	3	0	2	1	2	2	0	1	0	0	0	0	15	2.9
	31 ～ 35 人	2	1	1	4	2	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	14	2.7
	36 ～ 40 人	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	1.0
	41 ～ 45 人	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.6
	46 ～ 50 人	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
計	30	45	39	79	58	13	11	37	120	16	17	13	11	11	15	515	100.0	



部員数6～10人の学校は、31.1%、11人～15人の学校が24.5%となっている。6人～15人程度の部員数の学校が、全体の55.6%と最も多い。

女子の部員数 (女子のみの登山活動実施校数264校)

人数	府 県																合 計	
	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	校	(%)	
内 女 子 の 部 員 数	5 人 以 下	10	9	8	23	25	4	2	10	43	6	3	3	3	2	154	58.3	
	6 ～ 10 人	2	4	4	7	5	4	3	10	14	1	5	4	5	1	2	71	26.9
	11 ～ 15 人	1	4	4	3	2	5	0	3	4	0	0	0	1	0	0	27	10.2
	16 ～ 20 人	2	0	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8	3.0
	21 ～ 25 人	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4
	26 ～ 30 人	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4
	31 ～ 35 人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	36 ～ 40 人	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.4
41 ～ 45 人	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4	
計	16	18	19	36	33	13	5	24	61	7	8	7	9	4	4	264	100.0	



全国的に高校生（女）の登山活動を行っている校数は、少ない上に女子部員数5人以下の学校が、全体の58.3%と過半数を占めている。

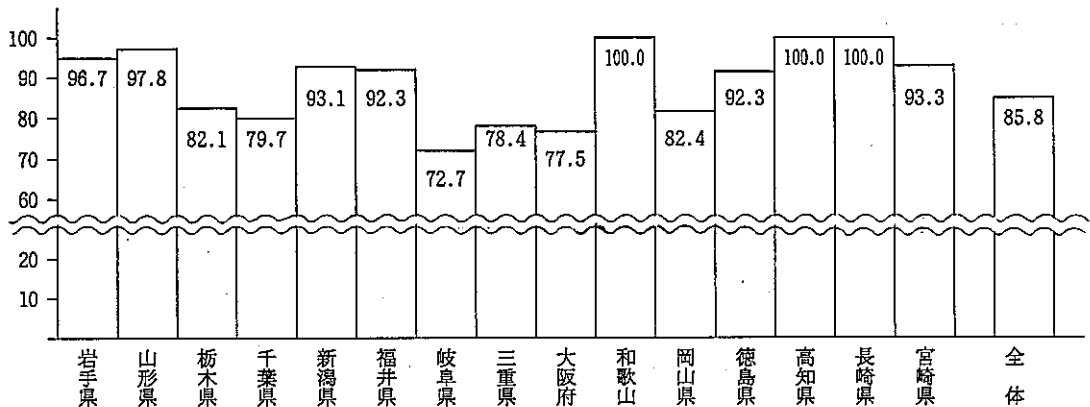
さらに6～10人の部員数26.9%と11～15人の部員数10.2%を含めると、95.4%となり部員数10人前後の学校がほとんどである。

4. 高体連登山部の加盟状況

(昭和62年8月31日現在)

府 県	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合 計
登山活動を行っている学校数	30	45	39	79	58	13	11	37	120	16	17	13	11	11	15	515
高体連登山部加盟校数	29	44	32	63	54	12	8	29	93	16	14	12	11	11	14	442
加 盟 率 (%)	96.7	97.8	82.1	79.7	93.1	92.3	72.7	78.4	77.5	100	82.4	92.3	100	100	93.3	85.8

高体連登山部加盟の府県別割合



登山活動を行っている515校の中で高体連登山部に加盟している学校は、442校で、その割合は、全体の85.8%となっている

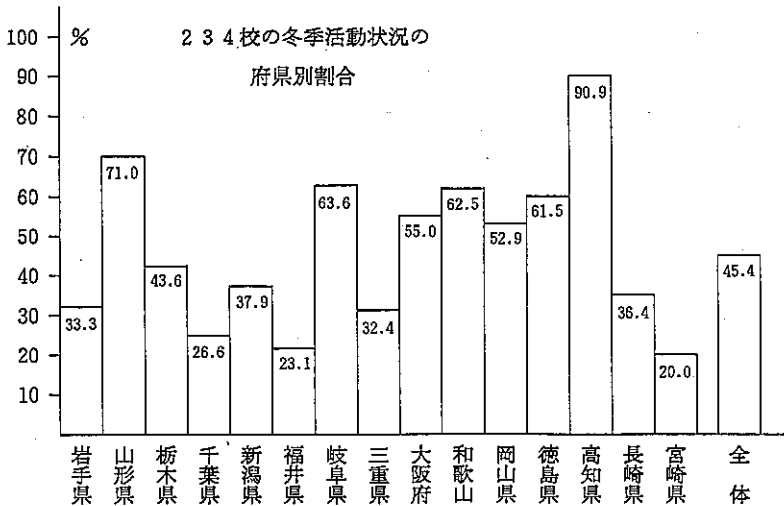
5. 山行活動

(1) 大会の部独自の季節別山行

山行内容	山行日数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
		大会を 登る山 に 行	春山	3	75	97	26	37	26	4	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	夏山	9	26	117	17	23	41	12	3	8	5	7	0	6	0	3	0	1	1	0	0
	秋山	20	77	131	13	6	13	3	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(校)		32	178	345	56	66	80	19	9	10	6	9	0	6	0	3	0	1	1	0	0
部行 独自の 山	春山	28	48	34	22	12	5	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	夏山	10	17	29	68	103	45	33	12	6	6	4	2	0	1	0	2	1	1	0	0
	秋山	28	63	32	13	4	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(校)		66	128	95	103	119	53	41	13	7	7	4	2	0	1	0	2	1	1	0	0
部行 独自の 山	春山	29	71	28	43	17	21	11	9	6	9	1	1	2	1	0	2	0	0	0	1
	夏山	21	52	28	29	23	17	12	3	6	2	5	4	0	0	0	1	0	0	0	1
	秋山	33	72	25	27	6	23	1	5	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(校)		83	195	81	99	46	61	24	17	14	17	6	5	2	1	0	3	0	0	0	2

(2) 冬季活動状況

府 県	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合 計
登山活動実施校	30	45	39	79	58	13	11	37	120	16	17	13	11	11	15	515
冬季実施校	10	32	17	21	22	3	7	12	66	10	9	8	10	4	3	234 (45.4%)
実施内容	雪上歩行・クロスカントリー・雪上幕営・ザイル操作・山スキー・冬山でのラッセル 耐寒訓練・イグルー構築・雪洞訓練															

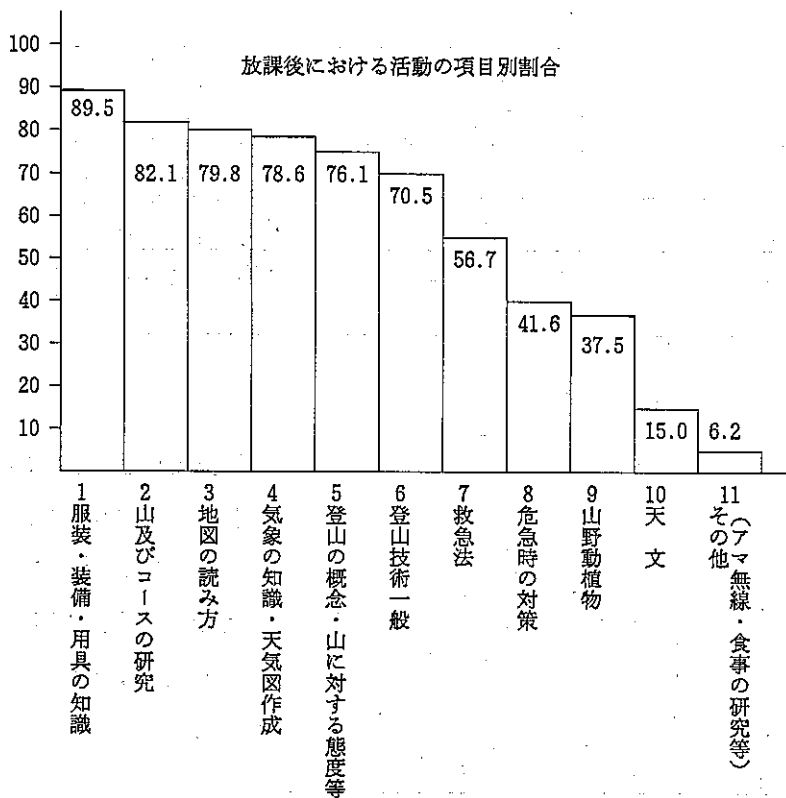


冬季登山活動を実施している割合は、45.4%とほぼ半数の学校が実施している。この場合、冬季登山活動とは言え降雪のない地域での活動が多い。

6. 放課後の活動

(1) 講座, 討論, 研究会等の実施 (実施校515について複数回答)

項目	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合計 (実施校 / 515校)
登山の概念, 山に対する態度等	22	37	33	62	48	10	8	23	86	13	14	11	6	8	11	392 (76.1)%
服装, 装備, 用具の知識	28	41	38	74	54	13	10	27	104	11	17	10	10	10	14	461 (89.5)
地図の読み方	28	42	34	66	43	12	8	20	86	15	15	9	10	11	12	411 (79.8)
気象の知識, 天気図作成	29	44	33	70	43	12	8	20	71	16	14	11	11	11	12	405 (78.6)
天文	4	12	8	13	7	2	2	2	12	2	4	2	1	2	4	77 (15.0)
山野動植物	16	21	19	27	23	8	4	12	25	3	10	4	2	10	9	193 (37.5)
登山技術一般	22	36	30	56	43	11	5	21	72	13	14	10	8	10	12	363 (70.5)
山及びコースの研究	26	41	34	68	50	10	8	27	89	13	14	11	9	10	13	423 (82.1)
救急法	21	33	26	47	29	9	7	15	49	7	11	9	9	9	11	292 (56.7)
危急時の対策	18	25	21	33	21	7	5	8	38	5	6	8	2	8	9	214 (41.6)
その他 (アマ・無線・食事の研究等)	0	5	4	5	3	1	3	1	1	1	2	0	1	1	4	32 (6.2)



項目1~6は, 割合よく
討議・研究されているが,
登山活動には欠かせない救
急法及び危急時対策, 食事
に関する研究は, 十分とはいえない。

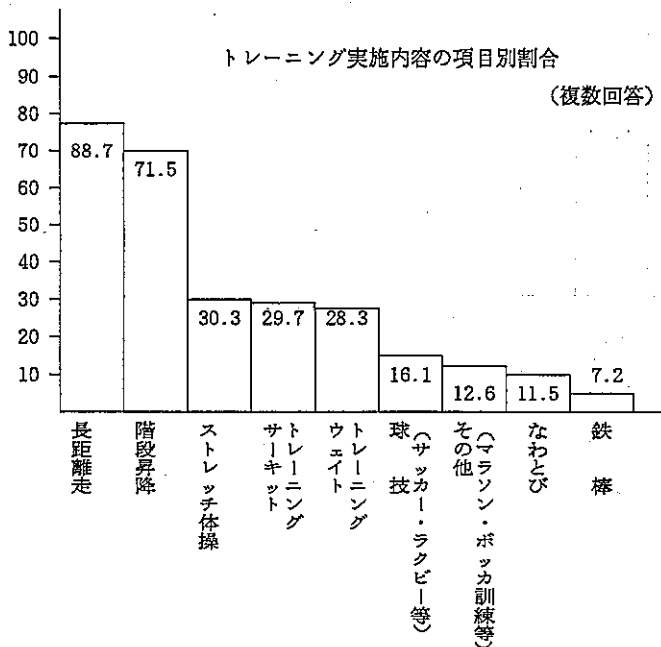
(2) トレーニング実施状況

実施状況	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合計(実施校/515校)
毎日行っている	11	7	17	28	10	0	1	6	27	4	4	2	1	9	7	134校 (26.0)%
週3回ぐらい行っている	9	22	14	30	14	6	6	15	57	8	8	5	6	2	4	206 (40.0)
週1回行っている	7	11	2	8	4	2	2	5	7	0	1	1	1	0	1	52 (10.1)
山行の前だけ行っている	3	5	5	12	26	5	1	5	24	4	4	5	3	0	3	105 (20.4)
行っていない	0	0	1	1	4	0	1	6	5	0	0	0	0	0	0	18 (3.5)

トレーニングを毎日行っている26.0%、週3回行っている40.0%、合わせると、66.0%と過半数を占めている。

まったく行っていない3.5%を省くと、96.5%の学校がトレーニングを行っている。

実施状況	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合計(実施校/515校)
長距離走	29	41	34	75	46	11	8	28	108	16	15	9	11	11	15	457校 (88.7)%
階段昇降	17	24	32	65	39	8	7	24	86	15	12	7	11	9	12	368 (71.5)
ウエイト・トレーニング	11	10	15	23	11	3	2	7	36	8	5	1	1	5	8	146 (28.3)
サーキット・トレーニング	9	11	12	33	10	5	5	5	39	5	7	1	3	0	8	153 (29.7)
球技(サッカー・ラグビー等)	6	9	4	23	7	1	4	7	11	3	4	0	0	1	3	83 (16.1)
なわとび	3	8	2	12	6	0	3	6	12	0	0	0	2	2	3	59 (11.5)
ストレッチ体操	11	12	11	19	14	4	5	8	48	7	5	3	1	3	5	156 (30.3)
鉄棒	0	0	5	10	3	0	3	4	6	2	0	0	1	0	3	37 (7.2)
その他(マラソン・ボッカ訓練等)	3	5	4	10	6	1	1	3	13	4	5	4	1	4	1	65 (12.6)



登山活動で最も重要な心肺機能の強化に適したトレーニング(長距離走、階段昇降、サーキット・トレーニング、球技、マラソン、なわとびなど)はよく行われているが、岩登り等で必要な筋力トレーニング、(ウエイトトレーニング、鉄棒など)が28.3%と低い。

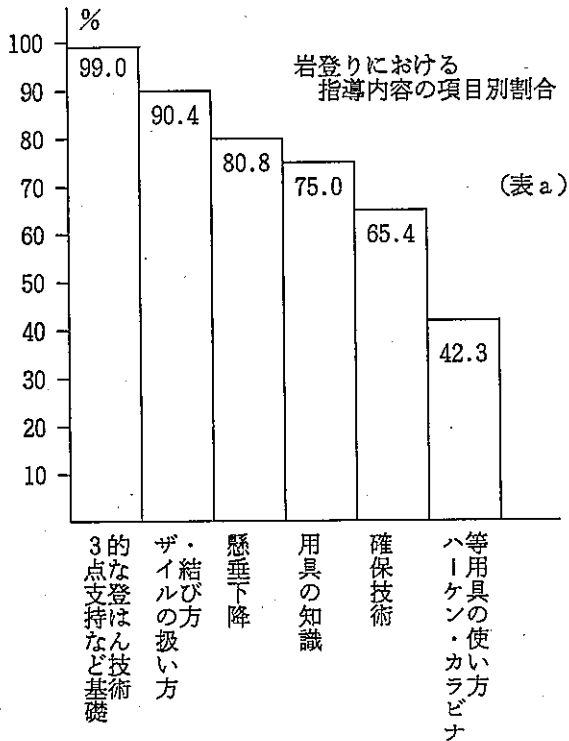
7. 岩 登 り

(1) 実施状況

実施状況	府 県	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合 計
実施していない		30	35	14	74	50	13	10	31	80	11	15	13	11	10	14	411校 (79.8)%
実施している		0	10	25	5	8	0	1	6	40	5	2	0	0	1	1	104 (20.2)
計		30	45	39	79	58	13	11	37	120	16	17	13	11	15		515 (100.0)

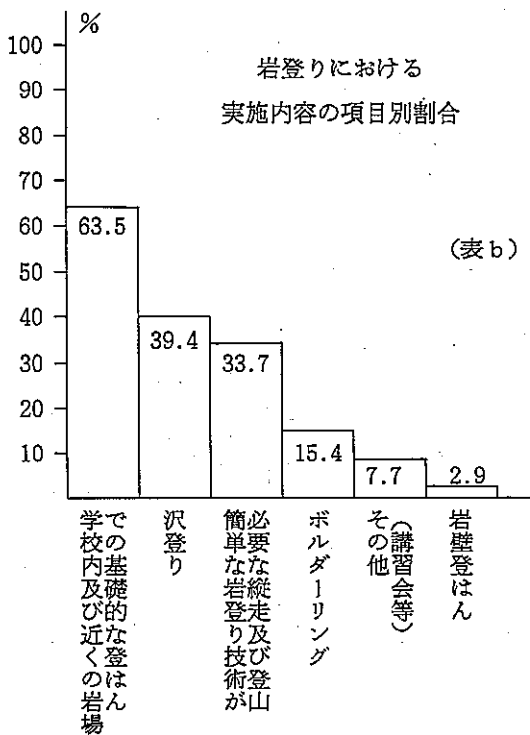
(2) 指導内容 (実施している104校について、複数回答)

実施内容	府 県	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合 計
用具の知識		0	6	24	3	8	0	1	2	27	3	2	0	0	1	1	78校 (75.0)%
3点支持など基礎的な登はん技術		0	8	25	5	7	0	1	7	41	5	2	0	0	1	1	108 (99.0)
ザイルの使い方・結び方		0	10	25	5	8	0	1	2	35	4	2	0	0	1	1	94 (90.4)
ハーケン・カラビナなど用具の使い方		0	2	13	2	5	0	1	3	14	1	2	0	0	1	0	44 (42.3)
懸垂下降		0	9	24	5	6	0	1	4	28	4	1	0	0	1	1	84 (80.8)
確保技術		0	7	23	4	7	0	1	2	20	1	1	0	0	1	1	68 (65.4)



(3) 実施内容（実施している104校について、複数回答）

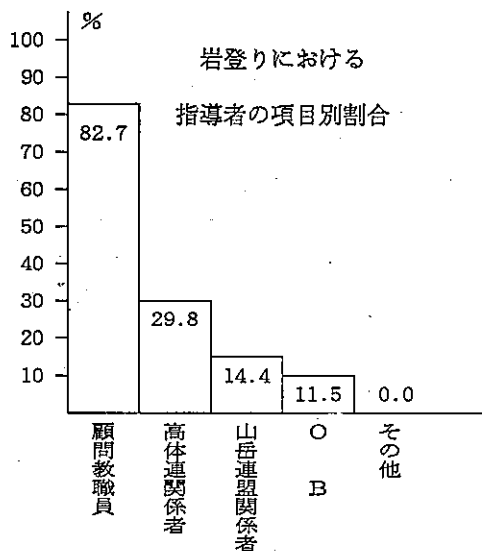
実施内容	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合計
学校及び近くの岩場での基礎的な登はん	0	2	20	2	3	0	1	4	28	3	1	0	0	1	1	66校 (63.5)%
ボルダリング	0	0	3	1	1	0	0	3	8	0	0	0	0	0	0	16 (15.4)
簡単な岩登り技術が必要な縦走及び登山	0	3	6	1	5	0	1	4	10	2	2	0	0	1	0	35 (33.7)
沢登り	0	10	5	4	4	0	0	2	14	2	0	0	0	0	0	41 (39.4)
岩壁登はん	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3 (2.9)
その他（講習会等）	0	1	4	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	8 (7.7)



岩登りについては、3点支持など、最も基礎的な技術が中心になっている。(表 a) また、学校内やその近くの岩場で手軽に行うが、63.5%と最も多い。(表 b) 本格的な登はん活動は、わずかではあるが2.9%の学校が実施されている。(表 b)

(4) 指導者（実施している104校について、複数回答）

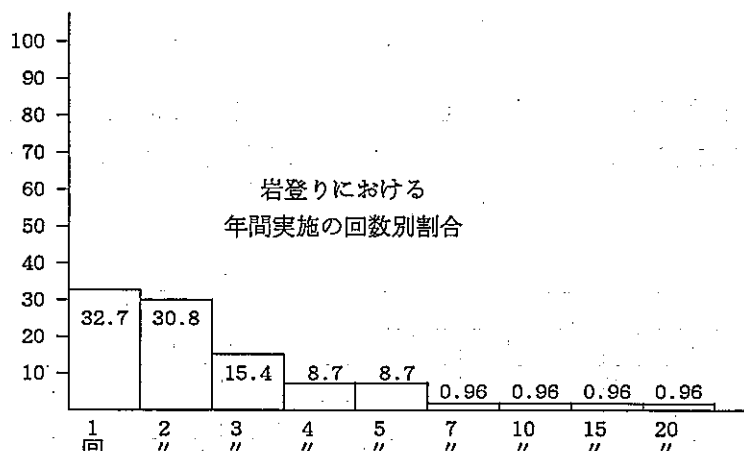
指導者	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合計
顧問教職員	0	4	21	5	8	0	1	7	31	5	2	0	0	1	1	86校 (82.7)%
OB	0	0	1	0	1	0	0	1	7	2	0	0	0	0	0	12 (11.5)
高体連盟関係者	0	2	16	1	1	0	0	1	8	1	1	0	0	0	0	31 (29.8)
山岳連関係者	0	2	2	1	0	0	0	2	7	1	0	0	0	0	0	15 (14.4)
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (0.0)



岩登りに関する指導者は、顧問となっている教職員が指導に当たる場合がほとんどで82.7%となっている。

(5) 年間実施回数 (実施している104校について)

回数	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合計
1	0	3	13	0	3	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	34校 (32.7%)
2	0	2	9	1	1	0	0	2	12	4	1	0	0	0	0	32 (30.8)
3	0	3	2	1	1	0	1	1	4	0	1	0	0	1	1	16 (15.4)
4	0	1	0	3	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	9 (8.7)
5	0	1	1	0	2	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	9 (8.7)
7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1 (0.96)
10	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1 (0.96)
15	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1 (0.96)
20	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (0.96)



年間1・2回実施している学校が、過半数で63.5%となっている。年間7回以上実施している学校は、4%とわずかである。

8. 春山登山

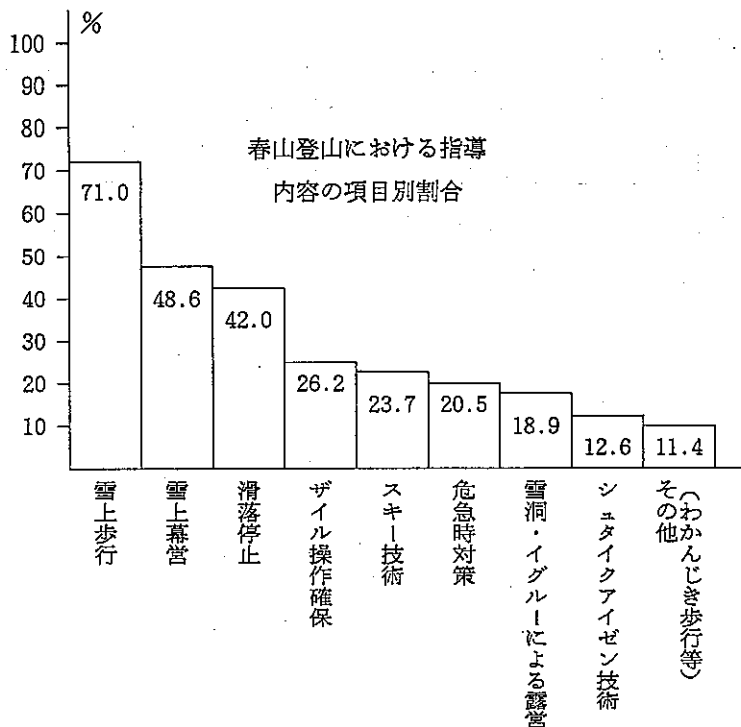
(1) 実施状況

実施状況	府 県	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合 計
実施していない		6	3	14	36	9	5	4	19	60	11	9	6	3	6	7	198校 (38.4)%
実施している		24	42	25	43	49	8	7	18	60	5	8	7	8	5	8	317 (61.6)
計		30	45	39	79	58	13	11	37	120	16	17	13	11	15		515 (100.0)

冬山登山に比べて天候が比較のおだやかな春山登山では、学校の休業日とあいまって実施校は、61.6%と過半数を越えた実施率となっている。

(2) 指導内容 (実施している317校について、複数回答)

項 目	府 県	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合 計
雪 上 幕 営		12	27	19	12	41	0	3	4	28	1	6	0	1	0	0	154校 (48.6)%
雪洞、イグルーによる露営		3	15	1	5	23	0	3	2	3	0	5	0	0	0	0	60 (18.9)
雪 上 歩 行		22	42	22	21	45	8	6	7	33	1	8	3	4	2	1	225 (71.0)
シュタイクアイゼン技術		0	8	3	10	2	0	1	2	12	0	2	0	0	0	0	40 (12.6)
滑 落 停 止		9	23	19	11	44	4	4	5	6	0	6	1	1	0	0	133 (42.0)
ス キ ー 技 術		5	21	3	3	14	1	3	3	18	1	2	0	1	0	0	75 (23.7)
ザイル操作、確保		2	10	17	6	33	0	4	3	3	0	4	0	0	1	0	83 (26.2)
危急時対策		5	14	6	10	17	1	2	1	8	0	1	0	0	0	0	65 (20.5)
そ の 他 (わかんじき歩行等)		1	2	0	9	0	0	1	4	6	2	0	4	1	3	3	36 (11.4)



春山登山の指導内容をみると雪上歩行が最も多く、71.0%を占めている。つぎに雪上幕営48.6%、滑落停止42.0%と初歩的な基本技術の修得に重点をおいている。

(3) 実施内容（実施している317校について、複数回答）

項目	府 県																合 計
	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎		
山 ス キ	4	18	0	2	6	0	2	0	13	0	1	1	0	0	0	47校 (14.8)%	
標高2000m以上の登山	6	3	8	9	1	2	4	1	5	0	0	0	0	0	0	39 (12.3)	
標高2000m未満の登山	18	34	17	35	44	6	2	17	43	5	8	6	8	5	8	256 (80.8)	

春山登山では、標高2000m未満の登山実施校の割合が80.8%となっている。指導内容が、初歩的な基本技術の修得に置き、ほとんどの学校が、2000m以下の低山で活動している。

(4) 指導者（実施している317校について、複数回答）

指導者	府 県																合 計
	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎		
顧問教職員	24	42	22	42	46	8	6	15	59	5	6	7	6	5	8	301校 (95.0)%	
O B	0	0	4	7	6	0	1	1	11	2	1	0	0	0	0	33 (10.4)	
高体連関係者	1	5	10	0	12	0	5	1	2	1	6	1	1	0	0	45 (14.1)	
山岳連盟関係者	0	3	5	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	14 (4.4)	
その他 (社会人) など	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (0.3)	

(5) 年間実施回数（実施している317校について）

回数	府 県																合 計
	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎		
1	14	8	18	29	33	5	4	9	50	4	5	3	6	2	3	193校 (60.9)%	
2	6	9	4	14	10	1	1	3	9	0	2	1	2	0	2	64 (20.2)	
3	3	12	2	0	5	2	2	1	1	0	1	0	0	1	2	32 (10.1)	
4	0	6	0	0	1	0	0	2	0	0	0	2	0	0	1	12 (3.8)	
5	1	4	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	10 (3.2)	
6回以上	0	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	6 (1.9)	

春山登山の実施回数は、年間1回が60.9%で過半数を占めている。また、2回実施と合わせると81.1%となり、春山登山実施校の大多数の学校が1～2回行っている。

9. 事故対策

(1) 山行計画を事前に審査する機関、機構の有無

項目		府 県														合 計	
		岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	
な	い	4	23	3	34	52	10	4	25	64	14	12	10	8	5	8	276校 (53.6)%
あ	る	26	22	36	45	6	3	7	12	56	2	5	3	3	6	7	239 (46.4)
内 訳 (複数回答)	自校関係者	9	11	4	42	6	3	7	10	45	2	4	2	3	6	7	161
	高体連、所管教委、警察	20	11	35	4	0	0	0	2	11	0	1	1	0	0	0	85

山行計画を事前に審査する機関、機構が「ある」と答えた学校は、46.4%と半数に満たない。安全対策上のチェック体制を確立することが大事な課題かと思われる。

(2) 万一の事故に備えての対応組織について

項目		府 県														合 計	
		岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	
で	きていない	11	20	7	62	49	12	4	19	89	11	11	10	6	10	12	333校 (64.7)%
で	きている	19	25	32	17	9	1	7	18	31	5	6	3	5	1	3	182 (35.3)%
内 訳 (複数回答)	自校関係者(OBも含む)	7	5	9	13	6	1	4	5	27	3	1	2	1	1	1	86
	高体連、岳連、山岳会	12	20	31	4	4	0	3	15	4	2	5	1	3	0	2	106

万一の事故に備えての対応組織は、「できている」が35.3%にすぎず、組織作りが十分とはいえない。「できている」の内訳は、自校関係者44.8%、高体連・学連・山岳会等によるものが、55.2%である。

(3) 保険への加入状況

加入状況		府 県														合 計	
		岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	
加	入していない	28	40	39	61	53	13	11	33	75	16	15	12	9	11	15	431校 (83.7)%
加	入している	2	5	0	18	5	0	0	4	45	0	2	1	2	0	0	84 (16.3)

(備考) ここで云う保険は傷害保険・スポーツ団体傷害保険・国内旅行傷害保険等をいう。

登山は自然を相手にするだけに、時には、危険を伴うことがある。今日あらゆるスポーツ活動において、任意の保険をかけ、大会運営を行っている現状を考えると、高校生の登山活動にも保険を考慮する必要がないであろうか。しかし、今度のアンケート結果をみると、加入していない学校が、83.7%となっており、加入校は、わずか16.3%に過ぎない。

10. 登山活動を行っている運動部顧問

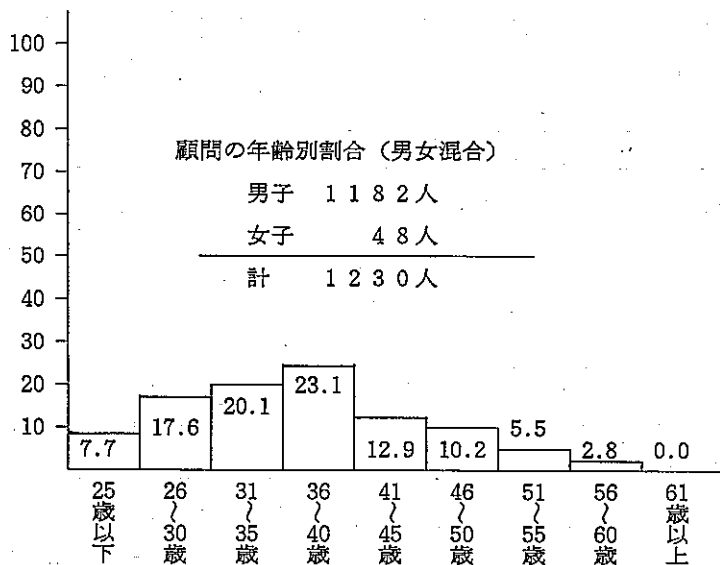
(1) 府県別総数と1校当たりの平均

府 県		岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合 計
男	子	61	103	104	176	140	35	21	85	296	38	38	26	16	22	21	1,182人 (96.1)%
女	子	1	1	2	3	6	0	0	7	21	12	1	2	0	1		48 (3.9) 1校平均 2.4人

登山活動を行っている運動部顧問は、1,230人で、その内訳は、男子1,182人（96.1%）、女子48人（3.9%）である。また、平均的学校は、正・副顧問合わせて2人で担当しており、多人数の部員を持つ学校は、正顧問1人、副顧問2人で担当している場合もある。ちなみに、この度の調査では、1校平均2.4人という結果が出ている。

(2) 年齢別

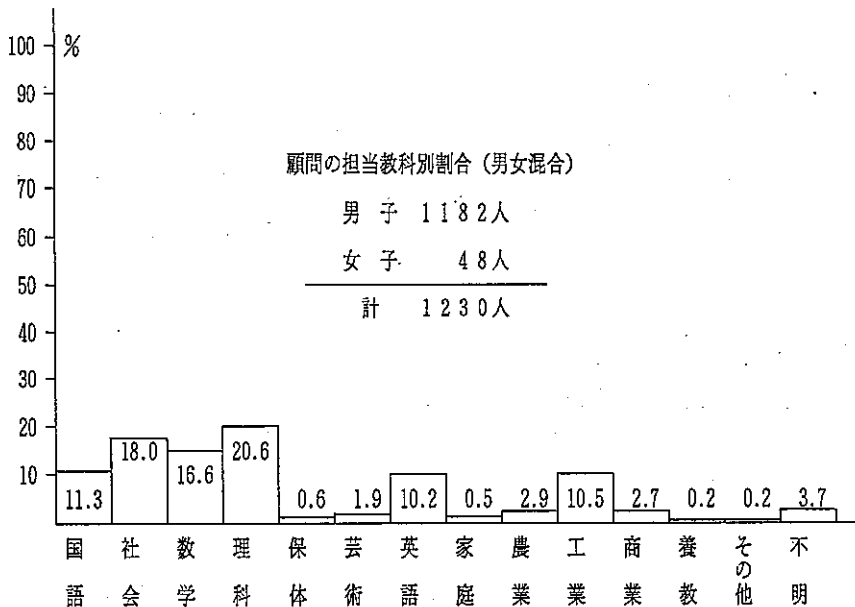
年齢	25才以下	26～30才	31～35才	36～40才	41～45才	46～50才	51～55才	56～60才	61才以上	合計
男子	81	207	239	277	155	121	67	35	0	1,182人
女子	14	9	8	7	4	5	1	0	0	48人
合計	95	216	247	284	159	126	68	35	0	1,230人
%	7.7	17.6	20.1	23.1	12.9	10.2	5.5	2.8	0	99.9



顧問を年齢別にみると、30歳から40歳にかけてピークがあり、その後、41歳から45歳までが半数に激減し、以下、漸減しながら60歳までに至っている。

(3) 担当教科別

教科	国語	社会	数学	理科	保体	芸術	英語	家庭	農業	工業	商業	養教	その他	不明
男子	126	217	200	247	6	23	118	0	36	129	32	0	2	46
女子	13	5	4	6	1	0	8	6	0	0	1	3	1	0
合計	139	222	204	253	7	23	126	6	36	129	33	3	3	46
%	11.3	18.0	16.6	20.6	0.6	1.9	10.2	0.5	2.9	10.5	2.7	0.2	0.2	3.7



顧問を担当教科別にみると、保健体育を担当している者は、0.6%と少なく、一方、理科を担当している者は20.6%で最も多い。さらに、社会科を担当している者は、18.0%と理科に続いて多い。

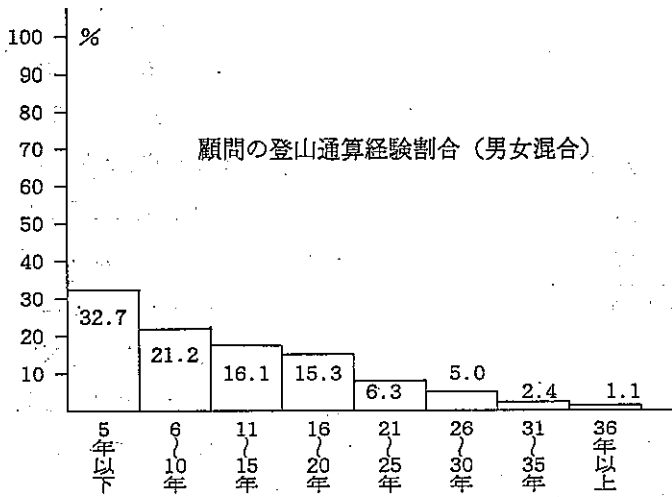
(4) 大学等で山岳部等の経験の有無

	人数	%
あり	231	20.6
なし	890	79.4
計	1121	100.0

大学等で山岳部等の経験のある顧問は、「あり」と答えた顧問が、890人で79.4%を占める。「なし」と答えた顧問は、231人で20.6%、即ち、2割程度に過ぎない。このように8割弱の顧問が、学生時代に登山活動の未経験者である。

(5) 登山通算経験

年数	5年以下	6~10年	11~15年	16~20年	21~25年	26~30年	31~35年	36年以上	合計
男子	378	246	192	187	77	60	28	14	1,182人
女子	24	15	6	1	0	1	1	0	48
合計	402	264	198	188	77	61	29	14	1,230
%	32.7	21.2	16.1	15.3	6.3	5.0	2.4	1.1	100.1



登山通算経験5年以下が、32.7%、6~10年が、21.2%と経験年数10年未満の顧問が、53.9%と過半数を越えている。

(6) 日本山岳協会等の指導員等資格の有無

資格	府	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合計
日本山岳協会1種指導員		3	2	3	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	13人 (1.1)%
日本山岳協会2種指導員		5	23	8	4	7	2	0	3	4	2	4	2	0	1	3	68 (5.5)
地区指導員		3	1	1	2	6	1	5	1	0	4	0	1	1	0	0	26 (2.1)
その他 (日体協上級コーチ等)		1	1	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	10 (0.8)

登山活動を行っている運動部顧問で、日本山岳協会等の指導員等資格の有無をみると、9.5%の顧問が、なんらかの資格を有しているに過ぎない。指導者として必ずしも資格の有無を問うものではないが、指導者資格の取得が望ましいと考えられる。顧問の資質向上等に対する一層の努力が望まれる。

11. 教職員以外の指導の有無

(1) 指導の有無

府	岩手	山形	栃木	千葉	新潟	福井	岐阜	三重	大阪	和歌山	岡山	徳島	高知	長崎	宮崎	合計
指導していない	27	37	33	68	52	13	10	30	92	12	16	12	9	11	15	437校 (84.9)%
指導している	3	8	6	11	6	0	1	7	28	4	1	1	2	0	0	78 (15.1)

(2) 指導者の状況 (複数回答)

	日常継続的に指導	合宿、山行等の場合のみ指導	合計
卒業生	18	45	63校
一般山岳会員	6	6	12
その他 (旧顧問等)	1	5	6
合計	25	56	81

教職員以外の指導者の内訳をみると、卒業生が指導者である割合が最も多く、81校中63校で77.8%を占めている。また、一般山岳会員及びその他(旧顧問等)では、18校を数えるに過ぎず、22.2%である。

12 競技登山（大会登山）についての意見

競技登山について、日常の山岳部（登山部）活動の中で、どのように位置付けているか。

また、競技内容などで今後伸長したいこと、あるいは、改善した方がよいと思われることなどの意見を集約してみると下記のようになりました。

1. 学校における山岳部（登山部）活動について

（多数意見）

- (1) 独自の計画によって部活動運営をしている。
- (2) 登山競技を目標に強化活動をしている。
- (3) 部員数が少なく、自然に接し、楽しむ程度の部活動をしている。
- (4) 若い指導者の確保が難しいので、指導者養成の研修会を希望する。

（小数意見）

- (1) 競技会に対する考え方が顧問によって異なり、部員にもその影響がある。
- (2) 大会参加に費用がかかり経済的に大へんである。

2. 競技内容について（希望的意見）

（多数意見）

- (1) 国体と高校総体の競技内容を統一する。
- (2) 登山の用具・装備の基準を改善する。
- (3) 採点項目に応急処置の仕方を入れる。
- (4) 体力をみるような長距離踏破の縦走登山で競技する。

（小数意見）

- (1) 補欠を認め、人数編成にゆとりを持たせる。
- (2) 部門別と総合を分離する。

（岩登り、山岳マラソン、山岳スキー、登山知識 その他 など）

- (3) 自然保護と競技を結び付け、関連付ける。
- (4) 監督・顧問の指示ができる競技にする。

3. 競技会の採点について

（多数意見）

- (1) 採点の基準を明確にする。
- (2) 点数至上主義の競技会は危険性をはらんでいるように思われる。
（負荷のかけ過ぎ、過剰なスピードを競う…など）
- (3) 競技が知識、技術にとられる傾向にある。
- (4) 国体のようにタイムレースを取り入れ体力を重視した競技にする。

(5) 開催地を有利にしない。

(小数意見)

(1) 従来の高校総体のように知力・体力の総合で競い合うのがよい。

(2) 服装・靴などの規制及びマナーに関する規制等々をはっきりさせて実施する。

以上のような意見が寄せられました。

(5) 開催地を有利にしない。

(小数意見)

(1) 従来の高校総体のように知力・体力の総合で競い合うのがよい。

(2) 服装・靴などの規制及びマナーに関する規制等々をはっきりさせて実施する。

以上のような意見が寄せられました。